

# 想いと誇りでつくるおおくま

～わたしを大事にし、あなたを大事にし、みんなで未来を紡ぎ出す～

地域の  
特色ある  
活動

## 福島県大熊町教育委員会

### 1 はじめに

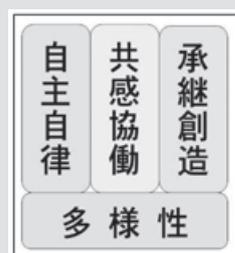
大熊町は、2011年3月の東日本大震災に伴う原子力発電所事故により、福島県会津若松市へ全町避難を余儀なくされ、昨年（2023年）4月に12年ぶりに学校が大熊町へ帰町再開を果たすことができました。

この間、園児児童生徒は被災前の約1.4%に当たる9名まで減少しましたが、認定こども園と義務教育学校を一体化した新教育施設「学び舎ゆめの森」を、町内再開にあたり2023年8月に新設したことで、町への帰還者・移住定住者も増え、2024年9月現在で、在籍園児児童生徒数は62名と増加傾向となっています。

### 2 新たなまちづくりと教育

#### (1) 第三次復興計画と教育大綱

大熊町では、2023年12月に町の復興の加速化に向けて、今後10年間町が進むべき方向性を示す「大熊町第三次復興計画」を策定しました。この中では、「想いと誇りでつくる大熊」をコンセプトに「みんなで主体的に学び合う生涯学習環境づくり」が施策の柱の一つとなっています。この復興計画を受け



大熊町教育大綱のバリュー

て、今年3月に大熊町教育大綱を改訂しました。教育大綱では、町の教育理念「温故創新」（先人に学び、新しい文化を紡ぐ）のもと、大熊町の歴史・伝

統・文化・自然を大切にし、ふるさとに誇りを持ち21世紀のみならず22世紀をリードする人材を育てる教育を創造していくことを目指し、大事にする4つの価値（バリュー）のもと、「わたしを大事にし、あなたを大事にし、みんなで未来を紡ぎ出す」をビジョンに定め、立場や能力、年齢などを限定しない「ごちゃまぜラーニング」な環境をつくり、何かを教えたり与えたりしすぎるのではなく「能動的に自ら学びをデザイン」し、それぞれが教え、学び合う中で「好奇心を発揮し、熱中し没頭していく」施策や事業を展開していくことをミッションとしています。

#### (2) 地域づくりと教育

大熊町では、現在整備検討を進めている社会教育複合施設（2027年完成予定）を基軸としながら、町で学ぶ人が0歳から100歳まで体験し学び続けるシームレス（学校でも家庭でも、学びたいときに学びたい内容を、いつでも切れ目なく）な教育・学習プログラムや学びの場の創出を目指し、町全体が学びの場となり、地域課題や社会課題の解決に自ら取り組むための創造的な思考力を育て、イノベーション人材（課題設定力・解決力と価値転換スキルを持つ人）の育成を目指すことが、これからの新しいまちづくりに繋がるとし、教育を中心としたまちづくりに挑戦しています。

大熊町では、原子力災害を経験した町でもあり、この経験を踏まえてゼロカーボンの推進による復興を目指す町でもあることから、大学と連携した官学協働による放射線教育、

防災・減災・環境教育の充実にも町を挙げて取り組んでいます。

### 3 「学び舎ゆめの森」の教育

#### (1) 0歳から15歳までのシームレスな教育環境

2023年6月に新教育施設「学び舎ゆめの森」が完成しました。「学び舎ゆめの森」は



学び舎ゆめの森「本のひろば」

全国でも珍しい、認定こども園と義務教育学校の子供たちが共に学ぶシームレスな教育環境を

取り入れています。教育理念や環境、授業、教職員がシームレスに連動する「ごちゃまぜラーニング」を展開し、多様性を力に変え、共感・協働する力を育てます。幼児期の「あそび（内発的関心・問いからの没頭）」の力を十分に伸ばし、学校の学びも内発的な「探究」へと転換し、社会情動スキルの基盤を形成する幼児期からの一貫した理念とカリキュラムを推進しています。

#### (2) 学習者中心の個別最適な学び

子供たち一人一人が自らの「学びをデザインする」学習環境の実現を目指して、タブレットとAI型教材を徹底活用することで、個々の児童生徒の習熟度に応じて、取り組む問題のレベルを調整し、それぞれの児童生徒の学びのペースで学習に取り組むことができる「学習者中心の学び」の環境づくりに取り組んでいます。

加えて、毎週金曜日の時間割を子供たちが話し合っ



自ら学びをデザインする力を育てる

て自らが時間割をマネジメントすることや人間関係をマネジメントすること（教師の空き時間

の確認や仲間との合意形成）、学習内容をマネジメントすること（もっと自分が伸ばしたい・補いたい内容の気づき）を経験し、自らの学びを自らマネジメントする力が育成されていきます。こうした学びのマネジメント力の育成を基盤とした個別最適な学びの展開は、知識習得の効率を上げ、習得時間を大幅に圧縮することにもつながってきています。

#### (3) 「福島県双葉郡教育復興ビジョン」と探究学習

東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故がもたらした多くの課題を乗り越え、被災地となった福島県双葉郡8町村が連携して、復興を担う長期的な人材育成に取り組むために、未来に向けて、双葉郡ならではの魅力的な教育を推進するために、平成25年に「福島県双葉郡教育復興ビジョン」が策定されました。双葉郡の学校では、これに基づき、知識・技能の習得に留まらず、応用力、実践力、創造力等を育むため、教育課程全体を通してアクティブ・ラーニングを推進しています。

大熊町では、持続可能な地域の実現に挑戦する「未来デザインの時間」を総合的な学習の時間に設定し、「個人と社会のWell-beingの実現」をテーマに、創造的演劇教育と個人探究学習を行っています。双葉郡の各学校での取組については、その成果を、「ふるさと創造学サミット」という形で毎年、双葉郡全体での発表会を開催し、児童生徒が交流し、共有する機会を設けています。



教育長

佐藤 由弘